

ヒーローズ塾生のみなさん、保護者様方、こんにちは。

6月予定

1	日	中3県模試
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	中3補習②B
8	日	休校
9	月	
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	中3補習③S.
15	日	休校
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	中2補習
22	日	休校
23	月	
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	テスト対策補習
29	日	テスト対策補習
30	月	休校(テスト対策補習)

最近、よく「受験勉強って何ですか？」と聞かれることがあります。決まった形での勉強というものはありません。ようは、毎回出される宿題をしっかりとやることやテストや模試で偏差値を上げていくことがそのまま受験勉強ということになります。ですから復習をするわけです。まず、宿題。「うっ」と感じるくらいの量（少し多いくらいの量）がちょうどいいです。もし、宿題がやや少ないと感じたら、多くだしてもらいましょう。あるいは、旧学年に使っていたテキストの問題にチャレンジしてみましょう。ここが出来るかどうかを自分で確認します。模試については、よく、定期テストでは成績がいいのに模試では思うように高得点がとれない生徒さんがいます。こういう生徒さんは、応用問題に弱い生徒さんです。対策としては、今までの模試をストックしていれば、もう1回解き直して下さい。そして、わからないところがあれば、すべて質問して下さい。模試直後は間違い直しをしている人もいますが、今またやってみて解けるかどうか重要です。鍵は間の置いた反復です。継続してください。

6月30日の通常授業はお休みです。中学生期末テスト対策補習です。

6月30日（月）は年間授業数調整（月4回）のため通常授業はお休みです。学校によっては30日から期末テストが始まっており、テスト対策補習を行う予定です。28日（土）が2年生、29日（日）が1年生、30日（月）が3年生の予定です。おって連絡します。（補習ですので無料です。）

中3補習は2グループ分けて5月24、6月7、14日に行います。

- ① 5月24日（土） 17時から20時 英語（疑問詞）数学（空間図形）担当森本。
- ② 6月7日（土）18時から21時 英語（動詞）数学（式の計算） 担当木南
- ③ 6月14日（土）17時から20時 英語（助動詞）数学（資料の整理）担当森本
- ④ 7月5日（土）17時から20時 英語（不定詞動名詞）数学（式の計算） 担当森本
補習は確認テストがあり基準点での解散となりますので終了時間が若干、個人差があります。ご了解ください。おって、対象の生徒さんにお知らせします。不参加の場合は、事前に欠席票の提出をいただくとありがたいです。

高校生、大学受験面談

高校2,3年生を対象に志望校を見据えた今後のカリキュラム変更も含めて面談を行います。大学は高校受験と違い、ある種の戦略が必要です。誤解を恐れずに言えば高校の定期テストの試験は全く関係ありません。（○山大学推薦は学部平均20人程度の狭き門です。）よって早めに文理選択、志望校にあわせて科目に絞り、学習することが先決です。昨今の大学受験制度改革も含めて情報をお渡しします。

6月14日(土)中学受検適性検査模試を行います。

来年1月受検、小6第2回目の適性検査模試を行います。(定員4名) 受検料(2,400円)

① 適性Ⅰ 10時45分から11時30分 ② 適性Ⅱ 11時45分から12時30分 参加の方はお申し出ください。

自前のエンジンを持とう！

一昨年のベストセラー 外山滋比古さん「思考の整理学」を最近、目に触れました。(完読はしていない。)

グライダーと飛行機は遠くからみると似ている。空を飛ぶのも同じでグライダーが音もなく優雅に滑空しているさまは、飛行機よりむしろ美しいくらいだ。ただ悲しいかな、自力で飛ぶことができない。

学校ではひっぱられるまま、どこへでもついて行く従順さが尊重される。勝手に飛び上がったりするのは規律違反。たちまちチツクされる。やがてそれはグライダーらしくなり卒業する。グライダーとして卒業した学生は大学なら論文、大学受験なら小論文、受験なら作文や意見文を書くことになる。これまでの勉強と違い、いささか勝手が違う。自由に書いてみよ、というのが論文である。グライダーは途方にくれる。突如としてこれまでとまるで違ったことを要求されても出来るわけがない。言われた通りのことをするのは得意だが、自分で考えてテーマをもて、と言われても苦手である。長年のグライダー訓練により、自力飛行の力を失ってしまうのかもしれない。

人間にはグライダー能力と飛行機能力とがある。受動的に知識を得るのが前者、自分でものごとを発明・発見するのが後者である。両者は一人の人間に同居している。グライダー能力をまったく欠いては、基本知識すら習得できない。何も知らないで独力で飛ぼうとすれば、どんな事故になるかわからない。しかし、現実には、グライダー人間が圧倒的で、飛行機能力はまるでなし、という優秀な人間が社会には、たくさんいることも確か、しかも、そういう人も翔べる、という評価を受けているのである。それならグライダー人間にエンジンを搭載するにはどうしたらいいのか？

学校も社会もそれを考える必要がある。(思考の整理学より引用)

生徒さんたちはどっちだろうか？ AかBか？飛行機人間へ育てていきましょう。

A

- ・予習していかないと怒られるからやる
- ・宿題を出されたからやる
- ・テストに出ると言われるから新聞を読む
- ・国語力が上がるよと言われたので本を読む

B

- ・明日への準備として、今わかっていることと、そうでないことを洗い出すためにやる
- ・今日習ったことを定着させるために復習しておく
- ・新聞を読むのは習慣だ
- ・ベストセラーになったものくらい読むのは当たり前だ

完全なグライダー人間です。

誰かに飛ばされているだけです。



自前のエンジンを持っています。

飛行機です。

思うに、滑空しているグライダーはいずれは下降していくしかありません。時として上昇気流に乗り、再び舞い上がることもあります。上昇気流という「低気圧」です。荒れ狂う低気圧の中を突入しないと上昇するチャンスはないわけですね。波風のない穏やかな今の季節のような快晴の高気圧の中で「のほほん」と過ごすグライダー人間。いずれは下降するしかない。気分晴れやかな高気圧の中を飛ぶにはエンジンを持たねばなりません。持つためには「低気圧」に身をおき、最初は排気量の小さいエンジンを作っていく。燃費の問題もあり、大きいければいいというわけでもないし、我々自身も……………。